
和歌～異世界解釈～

零詩

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

和歌〜異世界解釈〜

【コード】

N4020P

【作者名】

零詩

【あらすじ】

東の野にかぎろひの立つ見えてかえり見すれば月傾きぬ。

柿本人麻呂

中学三年生の国語の教科書に載っている有名な詩。

(前書き)

ええと、申し訳ありません。今年受験でありまして、勉強に追われている毎日となっていて、あまり更新ができませんでした。本当に申し訳ありません。

今回肩慣らしと言うか、PCからの執筆は久しぶりなので、腕をとりま度すためりハビリも兼ねて書いたものです。

和歌という物を自分なりの解釈で書いてみた短編なので、ちげえだろつ。と思われることもあるかもしれませんが、どうぞ生温かい眼で見守っていてください。

皇子様のお供で遠方に出た。

一晩中森の中を走り続けてやっと森を抜けた。

まだ太陽は昇ってきていなく、辺りはまだ薄暗い。

しかし、東の空のはじまりのほうはだんだんと明るくなってきている。もうすぐ夜明けなのだろう。

そう考えてからどれくらい経つただろうか。五分、いや十分か。

それくらいの間、短い草しかない野原を走っていた。

東の空が一瞬白くなったかと思うと、この野原の果てと東の空が交わるところに黄金色の光が朝を告げるように現れた。この世の万物の中で一番綺麗なものなのではないかと思う。

ふと今来た道を振り返ってみると淡い黄金色の光とは違う美しい輝きを放つ月が森に沈もうとしているではないか。

二つの光、日の光と月の光はそれぞれがそれぞれを引き立て会うかのように美しい輝きを放っている。そしてその二つは私たちを讃えてくれているかのようにだった。

皇子様の声が耳に入る。どうやら、あまりの美しさに馬を止めていたようだ。早く行かねば叱責を喰らってしまうだろう。それは勘弁だ。

急いで皇子様の横に着くと彼は「何をしていたんだ」と私に問うてきた。私は「秘密です」と答えた。その答えに皇子様は不思議そうな顔をしていたが顔を上げて日の光を目に入れると、少し眩しうに「見る。太陽が美しい」と私に言った。

そうです。それが美しいから私は立ち止っていたのです。

そんなことを言うのは野暮と言う物だ。私は皇子様にそうですね、と微笑みかける。

太陽と月という二つの美しい、この世の宝を見た今日はとてもいい一日になるであらう。

(後書き)

と、というのが、自分の感想と云うか、解釈なんです。皆様も昔の詩から想像してみてはいかがでしょうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4020p/>

和歌～異世界解釈～

2010年12月10日03時55分発行